

議員全員協議会

日 時	平成31年 3月14日（木） 開会中	12時55分 開会 14時20分 閉会
場 所	相良庁舎 4階 大会議室	
出席議員	議長 16番 太田佳晴 副議長 15番 鈴木千津子	
	1番 鈴木長馬	2番 濱崎一輝 3番 原口康之
	4番 吉田富士雄	5番 平口朋彦 6番 藤野 守
	7番 大井俊彦	8番 名波喜久 9番 植田博巳
	10番 村田博英	11番 良知義廣 12番 澤田隆弘
	13番 中野康子	14番 大石和央
欠席議員		
事 務 局	局長 植田 勝 次長 前田 里芳 書記 大塚康裕 書記 北原 大輔	
説 明 員	市長、副市長、教育長、建設理事、政策理事、総務部長、政策監	
	企画政策部長、健康推進部長、地域医療室長、地域医療係長	
	榛原総合病院組合事務局長、同調整監、同事業係長	
傍 聴		

署名 _____ 議長

開会の宣告

○議長（太田佳晴君）

まだ、1時まで5分ありますけれども、お集まりですので始めさせていただきたいと思います。午前中の連合審査会に引き続きまして、全員協議会ということでお集まりいただきまして、ありがとうございます。

2 市長報告（1） 榛原総合病院指定管理期間満了への対応について

○議長（太田佳晴君）

本日は、榛原総合病院指定管理期間満了への対応についてということで、先月の18日に行われました全員協議会において、市長のほうから平成32年に満期を迎えます徳洲会との指定管理について報告がありました。その中で、平成32年度以降についても指定管理者制度による運営とし、引き続き医療法人沖縄徳洲会を指定管理者とする方針が管理者である市長のほうから示されました。

当日は、一応報告ということで質問はなしで終わって皆様にそれぞれ持ち帰っていただきまして、きょうまでにいろいろな質問また考え方をまとめてきていただきたいということでお願いしてありました。きょうは、そのことについて質問、また、ご協議をお願いしたいと思っております。

18日にも市長の方から、徳洲会のほうとしても、やはりいろいろな準備があるということで、できれば1年前に方向性を示していただきたいということの報告があったということで、我々議会としてもしっかりと方向性を見定めて、この中から病院議会に3名出ているわけなんですけれども、我々病院議会の議員としても、議会の総意を持ってやはり議会に臨みたいと思いますので、きょうはいろいろなご意見をお願いしたいと思います。

それでは、最初に市長のほうから補足説明等ありましたらよろしく申し上げます。

市長。

○市長（杉本基久雄君）

きょうは、午前中の連合審査に引き続きまして、榛原総合病院組合の指定管理期間の満了について対応ということで、お時間をいただきまして、感謝を申し上げます。

この件につきましては、2月18日の議員全員協議会でご説明を申し上げました。榛原総合の指定管理満了への対応につきまして、当日は、その後吉田町への説明等々スケジュールがございまして、十分な時間がとれないということもありまして、改めてということで、資料等説明をさせていただいて、きょうに至ったわけでございます。本日は、忌憚のない皆さんからのご質問、ご意見をいただき、これからの協定に臨みたいと思っております。

そして、同日に吉田町議会の行政報告会にも同様の説明をさせていただきました。

また、2月27日に開催されました、榛原総合病院組合議会の後も、病院組合議会の全員協議会を開催いただきまして、組合議員の皆様と意見交換もさせていただきましたので、あわせて報告をいたします。

そして、その後の動きでございますが、徳洲会では3月31日に理事会が開かれまして、今回の、前回お示しさせていただいた沖縄徳洲会の意向ですね、指定管理に向けての条件、地域医療交付金の考え方や、指定管理者の負担金あるいは指定管理期間というような基本的なものについて、理事会で承認をされる見通しだということで、連絡が入っております。

そして、その後においては、できるだけ早い段階で病院組合の議決をいただけるとありがたい、協定締結が早期にできることを望むというようなことが言われておりますので、それにつきましては、新年度へ入りまして、医師、看護師あるいはコメディカル等々の職員採用するに当たって、残り期間がもう1年を切っているという状況ではなくて、その後の10年間の指定管理の運営も決まっているという中で職員募集をすることによって、医師、看護師等の人員確保がしやすくなるということですので、できるだけ早い段階での議決をいただければありがたいということも申し入れがございましたので、あわせて報告をさせていただきます。

それでは、よろしく願いいたします。

○議長（太田佳晴君）

補足説明等はよろしいですか。

○市長（杉本基久雄君）

はい。

○議長（太田佳晴君）

それでは、議員の皆さんからいろんな質問、ご意見いただきたいと思っております。よろしく願いします。

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

前回のご説明もありましたし、資料も読ませていただいて、もちろん細かいことを言えば、こうあればいいなという理想、また目標というものはあると思うんですが、沖縄徳洲会側の言い分といたら言葉は悪いかもしれないですけども、沖縄徳洲会側の意向というものも妥当といたらおかしいですが、もっともだと思われま。

何をおいても、何よりも大事なのが、やはりこの地域の医療を維持、継続していくということが最優先されると思っておりますし、一番は普通の病院ではない、救急医療を支えていただくという部分がやはり一番大きいと思うんですね。

細かく見れば、診療科に不足があるのは現状は当然あるんですが、救急車を受け入れてもらえる。これを維持、存続するために今回沖縄徳洲会側さんに、今以上に、我々がわがままといたらおかしいですけども、今以上に条件を求めて、逆に向こうが売り手市場、買い手市場じゃな

いですが、向こうが、ならばご遠慮しますという話になってしまうのが、一番いけない形だと思いますので、おおむねです。やはり、おおむねという言葉はついてしまうんですが、おおむねこの方向性で詳細を詰めていくということが望ましいのではないかなと、私個人は現状思っております。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

質問はいいですか。

○5番（平口朋彦君）

質問か意見かと言ったので、意見言わせてもらいました。

○議長（太田佳晴君）

いいですね。

植田議員。

○9番（植田博巳君）

ちょっと確認させていただきたいんですけども、この資料の（3）に指定管理における主な条件ということで、地域医療交付金が年額3億6,000万円、それから指定管理者負担金ということで、年間6,000万円の受け入れということなんですけれども、その下に、通常は減価償却費相当額を施設使用料として指定管理者から収入することが一般的であるということで書かれているんですけども、これ通常の場合の指定管理した場合の組合としての予定額というのは、どのくらいなんですか。

○議長（太田佳晴君）

副市長。

○副市長（横山裕之君）

交渉の中でいろんな数字をここにご提示してくださいという依頼があったときに、試算をしてみました。その減価償却費に相当する分を約20年間で平準化した場合になりますけれども、おおむね2億1,000万円ぐらい、2億1,000万円から2,000万円ぐらいの額になるということで試算をしたことがございます。

○議長（太田佳晴君）

植田議員。

○9番（植田博巳君）

それは、仮に公募した場合の予定額ということに考えていいですか。指定管理を公募したときの予算額という意味合いで。

○議長（太田佳晴君）

副市長。

○副市長（横山裕之君）

そのときに、普通の公募でどこまでを条件にするかということは、これからそういう時々の状

況になると思いますが、ただ、今ある減価償却費、年間4億数千万を、一応公募上というか、出しているわけですね。決算上。それを20年間平準化した場合の数字ということで、これは公募したときにこの数字をダイレクトにもらえるかどうかは、そのときの条件になるということだと思います。

○議長（太田佳晴君）

植田議員。

○9番（植田博巳君）

それとあともう1点ですけれども、通常、前回プロポーザルといいますか、総合評価方式で公募して、受けてくれる方がなくて徳洲会の方と最終的に締結したということなんだけど、今回はそういう指定管理の総合評価方式によってやるわけじゃなくて、あくまでも随意契約の理由をつけて契約したいと、そういうような意向でしょうか。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

あくまでも随意契約で臨むということで、その随意契約の条件を、これまで徳洲会と協議してきた中で、徳洲会側の意向が示されたということで、基本的には10年前の条件を継続してくださいというのが条件であるということで、我々も中で協議した結果、その条件で受け入れて、これからの10年をお願いしようというものでございます。

○議長（太田佳晴君）

植田議員。

○9番（植田博巳君）

わかりましたけど、これは地方自治法の167条の項目ありますよね、随意契約の理由と。そういう形の中で理由をつけて出すという格好の解釈でいいですか。それとは違うのかな。

一応、法律的な随意契約の手法をちゃんと踏襲しながらやっていくということで、当然そうだとはい思いますが、それでいいですね。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

一応そういうことで、地方自治法に則ってやっていくということであります。

○議長（太田佳晴君）

村田議員。

○10番（村田博英君）

契約の更新について、3点ほどあるのですが、疑問点等ありますので、まず一つは、ここに交付金を書いてありますが、3,000万円、現協定書における額、そのまま徳洲会は維持してくれということでもあります。先方はそういう意向だということ。

もう一方では、協定書における中身において、医師の補充について満足いけるという項目があったかにと思いますが、そこについては、非常に困難なことはわかっていますが、これをどうしようとしているかというか、協定書のとおりにするためには今すぐ医者をふやせとかというのは、なかなか難しいと思うので、それをどういうふうに要望していくか、あるいはどういうふうに達成していくのかというところが一つ市民の皆さんに対しても言わなきゃいけないことだというふうに思いますので、それが1点ですね。

それから、この諸条件がいろいろありますけど、おおむね指定管理期間10年間というのは、これは妥当ではないかなと思いますが、榛原総合病院の建てかえ建築資金として、今東館が30年超える状況になっていると思うんですが、建てかえをするのか、壊すのか、今450床を現実にあわせた200床ぐらいにしていくのか、そういう将来的なビジョンを含めたところでお考えをきちっとまとめていかなとまずいかなというふうに思います。

とりあえず以上です。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

医師確保については協定の中でも、詳細についてはまた補足をさせますが、いずれにしても随時徳洲会側としっかりと対話を持って、そして必要な医療、不足している医療について充足していただくというようなことを定期的にやる必要があるというふうに思っています。

そして、徳洲会では3年くらい前かな、医師確保の特別の担当を2年前に静岡厚生病院で専門に医師確保を行っていた方を特別に雇用しまして、そして医師確保専門の担当として、いろんな形で全国飛び回って医師確保に努めていると。今も、その担当に方による医師確保の成果が何人も出ているということでもありますので、独自の榛原病院における医師確保対策もしっかり行っているという状況であります。

詳細については後で説明をさせます。

そして、建てかえの関係ですが、東館がもうじき、減価償却費の法的な期限を迎えるということでもあります。これをどうするかというのは、まだ結論出ておりませんが、リノベーションするのか、あるいは病床数についても450床、これをどうするのか。これについても、これからしっかりとこれからの10年後、あるいは20年先を見据えたビジョンをしっかりと立てて、そして必要な病床数について確保していくと。そのほかについては整理するというのも必要ではないかなというふうに思っております。

ビジョンについては、詳細については、またビジョンの病床数については説明させますが、そういったことで450床にこだわる必要はないというふうに私思っておりますので、そうした中で必要な建てかえの規模をこれからしっかりと詰めて、そしてそれに向けて徳洲会側ともしっかり話し合いをさせていただいて、これから次の10年後、20年後に向けたことについて議論していくことが重要であるというふうに思っております。

○議長（太田佳晴君）

榛原総合病院組合事務局長。

○榛原総合病院組合事務局長（植松順弘君）

まず、地域医療交付金の考え方なんですけれども、現行の協定書、例えば周産期云々とかというのが載っているんですけど、例えば周産期について、一つの病院で全てを用意できるかどうか、それが今、志太榛原におきましては、主にほとんど焼津市さんが見てくれていると。そういった意味では、病病連携という形で進めると。そういった場合に、そこら辺の協議もまたこれからしていく必要がありますので、そこら辺をいかに協定書に反映させるかということが出てきます。したがって、今の協定書の項目と多少、実態に応じて、これからやるべきことに応じて、文言と項目は変わってくるかと思えます。

2点目に、医師確保ですけれども、先ほど市長のほうからお話ありましたように、今は徳洲会のほうでは榛原病院の中に専門スタッフの方がいらっしゃいまして、かなり精力的に動いていただいています。主に、医師の紹介業者さんとかがいますので、その方と接触して情報を得て、榛原病院に行きたいという情報があれば、訪問に行ったり逆に来ていただいて、病院を見てもらったり。特に医師なんかは、もちろん森田先生、院長と接触して、こういう考えだよということをお聞きしてやっております。

結局、実績として5人、ドクターを確保できています。

ただ、一方でどうしても事情でおやめになる方もいますので、ただ結果として医師数のほうはキープされているということです。

3点目ですね、これからのビジョンということなんですけれども、現在国のほうから地域医療構想ということで、各二次医療圏単位で病床数の計画をつくりなさいということで出ておりました。今、志太榛原でも当然ほかの公立の3病院、あと民間の病院と県の中部保健所の方が中心になって話を進めています。

うちの病院、450床許可病床をいただいているんですが、今それに達していないところでは動いているんですけれども、稼働率がきょうも90%を超えているということで、動いている病床に対してはかなりの患者数がいるということになります。

あわせて、去年の夏ですね、この冬、患者さんが多くて、もうオーバーベッドの状況がありました。こういうことを踏まえて、この3月から西3病棟をとりあえず10床ということで開棟して対応しております。

そういう状況を見ながらということと、あと、今調査はしているんですが、牧之原市と吉田町の住民が他病院にどれだけ行っているかというのを、アンケート調査をしますと、大体全体の6割ぐらいは榛原病院で診れていて、4割ぐらいがほかの病院のほうに行っているということになります。

そこを、4割の方をいかに来てもらうかという、体制づくりというのが必要になってくると思いますけれども、先ほど冒頭で説明したとおり、周産期等を代表するように、病病連携の話があ

りますので、何を全てを整えるということが本当にいいかどうかということで、別問題ですので、そこをどういうふうに考えていくかということで、今、それこそ県のほうと近隣病院とも話をしながら、そこを進めているという最中でございます。

以上でございます。

○議長（太田佳晴君）

村田議員。

○10番（村田博英君）

わかりました。県のほうの医療体制について、新しい指針がある程度出ているのではないかなというふうに聞いておりますが、そちらとの連携といたしますか、基本的に榛原医師会と、これは周辺の病院施設との連携といたしますか、そのあたり話は出ています。

○議長（太田佳晴君）

榛原総合病院組合事務局長。

○榛原総合病院組合事務局長（植松順弘君）

お答えします。まだ、志太榛原全体でどのぐらいの病床数が必要かということは、まず最初に厚労省のいろんな項目を使用しまして、全国の二次医療圏のこのぐらい病床が必要だよという試算を、指標の数字を出しております。その数字に関しましては、病床の機能別ということで、高度急性期医療、急性期医療、一般の急性期と療養とかの病床、その4種類に分けて、どのぐらいの病床が必要かという指標が出ているんですけども、志太榛原におきましては、全体ではほぼ総数と現状と、とんとんという感じなんですけれども、急性期が実際に動いているのが、使用量が多いという状況で、あと回復期ですね、そういうところにいかにうまく適合させていくかということがテーマになっています。

ただ、あくまでも国のほうで、全体的に同じ項目を使って算出した数字ですので、必ずしもそれが各地域、地域に適合しているかどうかはちょっとわからないということで、それは国のほうもそういうふうに、あくまでも指標だよということで言っております。

今、静岡県県のほうで、浜松医科大学の先生方にアドバイザーという形で入っていただいて、静岡県版のこの地域にあった指標ということで、研究して、数値が今試算中ですかね。そういう方向で一つの指標を出すよということでやっています。

当然、その会議に民間の病院さんの院長さんとか事務長さんも出ておりますし、当然それぞれの医師会の会長さんも出ていますので、その中でどうやっていくかということを決めている状況でございます。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

病病連携ということであります。この志太榛原医療圏は人口10万人あたりの医師数が150名ということで、静岡県が百九十何名だと思いましたが、全国でも静岡県、もう四十何番目ですよ。

けつから数えて三つ目くらいなんですけど、その中において、県内でも東部の次に少ないというような状況であります。そして、なおかつこの榛南地域、牧之原、吉田でいいますと、70から80人ぐらいということで、極端に少ないんですね。

ですから、今、志太榛原のこの4病院が、どこの病院もフルスペックの医療をやろうというのは、これは不可能なんです。ですから、私も首長会の際に、4市あるいは静岡市まで入った中で、やはりこれからは病院の連携をやっていかないと、医療圏、この志太榛原医療圏が一つの医療圏で、二次救急を担う。そこでフルスペックが賄えるという環境をつくるべきだということで話をさせていただいています。

それぞれ、得手不得手ございますので、そうした中で今現状では、産婦人科、周産期については焼津に周産期の産婦人科学会が集約をしているという状況ですので、そういったことも焼津も藤枝も島田もそれぞれ得意分野をしっかりと担っていくと。榛原総合病院でいえば、心臓血管外科内科、そこが今すぐれた医者さんいますので、そういった部分で、得意分野それぞれ生かして連携する中で、この4病院が一つの医療圏の中でフルスペックを目指すということを、私からも提案させていただいています。

○議長（太田佳晴君）

中野議員。

○13番（中野康子君）

済みません、今、市長からお話があったものですから、ちょっとだぶっているかもしれませんが、済みません。静岡県は医師が少ないということを新聞紙上でもありました。国も、こういう少ない県に対してはてこ入れをするというような話がある中で、指定管理を10年間していく中で世の中が変わり、この10年間でもっともってこ入れをされたときに、榛原総合病院が徳洲会という、特殊な民の病院の中へ、どれくらいのかこ入れするのか、ちょっとその辺が逆に不安になっている部分が1点。

それと、前回私、細かい申し合わせ事項の中で、牧之原市が担わなければならない部分と、それから榛原総合病院がみていかなければならない、甲と乙の申し合わせ、細かい部分がたくさんありますよね。そこを見直していただきたいとお話をしたいんですが、その部分の見直しって、かなり牧之原市が担っている部分がすごく細かいところであったはずなんです。その部分は少しは見直していただいて、そういう部分も少しは話の上でのせていただけたのかどうなのか、その辺をちょっと聞かせていただきたいと思います。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

今、静岡県においても、医師の奨学金制度もやられているという中で、あるいは今後、恐らく国も偏在している医療過疎地に重点的に配分するというようなことがされると思います。

やはりそのときに一番大事なのが、研修医を受け入れて研修医を育てる指導医の医者がない

と、そこに研修医が来られないという環境になりますので、いかに指導医を榛原総合病院に置くかということが大事ですので、そういった中で、やはり民間の医療法人の中ではトップクラスですから、そういった意味で何らかの形で派遣でもいいと思っていますけれども、そういった指導医をしっかりと置いて、研修医を受け入れられる、そういうシステムといいますか、対応が必要であると思っていますので、そこは我々としても徳洲会側に協力の要請をしたいというふうに思っていますし、それからもう一つ、徳洲会は今、湘南鎌倉へ看護大学を創設しようという、これが今具体的に動きが進められています。

そして、まだこれは具体的ではないんですが、それにあわせて医大を創設するという構想があるというふうに、この間理事長から伺っていますので、そうすると徳洲会が独自に医師を排出するというのも、今後見えてくるということもありますので、そこは期待の部分ですが、ございます。

あと、そのほかのことについては事務局のほうから。

○議長（太田佳晴君）

榛原総合病院組合事務局長。

○榛原総合病院組合事務局長（植松順弘君）

それでは、中野議員が言われているのは構想のところの例えば保守とかの役割分担のところですよ。その件について、やはり協議の中で、交渉の中で重要事項ということで捉えて交渉を進めてまいりました。

結論的に申しますと、ほぼ変わらないという結論になりました。ただ、お互いに双方のどういう内容があるとか、本部まで含めて榛原総合病院の現状を知っていただいたということがあります。

もう一つ、これは逆に徳洲会さんからの提案で、それが実現できるかは別としまして、徳洲会さんはやっぱり全国であれだけの七十幾つの病院とか、ほかの施設もやっていますので当然管理ノウハウは、そういうのをお持ちなんですよ。東京本部の中にそういう管理の専門部隊もいますので、そういう方々からいろんなヒントとか情報を、それは提供できるよということで伺っていますので、そういうことを組合の担当業務であろうとも、そういうことを活用しながらやっていければいいかなと思っています。

ただ、皆さんご存じだと思いますけれども、中部看護学校の負担金なんですけど、今、正直現行の協定書の中には負担が入っていないんですよ。ただ、今の協定書の指定管理が始まった後なんですけれども、徳洲会さんから申し入れがあって、約4,000万円ぐらいなんですけれども、それは徳洲会のほうで持つよということで、お金は組合から、中部看護が払っているんですけども、徳洲会さんから組合に入れてもらっているという状況です。今度の協定書では、そこら辺も明記したいと考えております。

以上でございます。

○議長（太田佳晴君）

鈴木千津子議員。

○15番（鈴木千津子君）

もちろん皆さんと思いは同じですし、意見等も重複すると思うんですけれども、市長も今までおっしゃいました、この管内にある4市の総合病院が連携していくということで、このお話に関しては当時の西原市長からもずっとそういうお話が続いていました。

しかしながら、4病院の連携というのが、これまで私たちにもはっきり見え切れていなかった、そういう部分も多々ありましたし、今、市民の皆さんからの声も、なかなかそこらがきっちりわかりづらいというか、救急車が来てもなかなか行く先がぱっと決まらない。小一時間、40分以上も待たされて、そういった現状が現実あるわけです。

ですから、病院は当然稼ぐということも大事ですけれども、やはり榛原病院は特に地域の基幹病院でもありますので、4者の連携をしっかりといただいて、ぜひ市民の皆さんに、例えばこういう脳外の病気だったらここの病院へ、そして心臓であったら、例えば先ほどおっしゃったように榛原病院がすばらしい先生がいるんだよということであるならば、救急車がすぐそこに走れるような、そういうような体制をしっかりと組んでいただいて、私としましては、本来病院というのは、稼ぐところだと思っています。やはり、患者さんがいかに多く来てくれるか、地域の皆さんからどれだけ信頼されるか、そういうことが基本にあると思うんですね。そうしたことから、この資料3に内部留保を蓄えていく、まさにこれが本来の病院の一番原則ではないかと思っています。

以前の指定管理からもう10年たちましたし、高度の医療機器等ももうそろそろまた変える、リースでいくのか、買うのかどういった形になるかわかりませんが、そうした多額の、今後財政的なこともかなりかかっていくと思われまますので、ぜひ私としては、市民からの声もあるんですけど、目玉となる診療科、どの診療科も同じようにやっていただきたい気持ちは強いんですけれども、この病気だったら、ほかの市町から、他市町からお客さんが集まってくるような、病院さんが集まってくるような信頼されるような、そういう診療科の目玉となるような診療科をぜひ立ち上げるような方向で頑張っていたいただきたいなと思うんですけれども。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

それでは、ただいまいただいた中での連携につきましては、脳外科の外来ですけれども、現在大阪医大、それから島田市民病院、平成記念病院、この3病院で週4日脳外科の先生に来ていただいて、外来をやっていただいています。

この外来をやっている間については、脳外の脳梗塞とか脳卒中とかいう患者さんがあった場合には榛原総合病院で基本的には受け入れるということをやらせていただいています。

それから、時間外とか、いない日に関しては、島田、平成で救急をとっていただけるという連

携が構築されているところであります。

そして、もう一つは信頼といいますか得意な、先ほど少し触れさせていただきましたけれども、榛原総合病院には垣先生という、心臓血管外科の優秀なドクターがいらっしゃいます。この先生は、もう4年目くらいなのかな、かなりの症例をこなしておりまして、去年ですか、このかわいではほとんど実例がない、心臓を動かしながらのバイパス手術を、動脈の心臓の血管の移植手術というか、これを一遍に2本やるというような、この辺では症例がないような、相当レベルの高い手術をやられているということですので、そういった面からすると、心臓血管外科については相当な例があるということと、それから循環器内科のほうの治療も診療もできるというのが、両方できますので垣先生は、それにしたがって、今先ほど言った医師確保の担当が確保しました循環器のドクターもいるということで、心臓については人数が少ないんですが、非常にレベルが高い医療をやっているという認識であります。

それから、小児科も先生が一人しかいませんが、金先生という方は土曜日もやっていただいたり、夕診をやっていただいたり非常に評価が高い先生であります。

それから、森田院長も本当に一人で外来、入院病棟、手術、院長という大役、マネジメントですね、一人四役をこなしている。整形外科医で一人で手術をやる先生というのは、このかわいではいません。大体二人とか三人いないと通常はやらないんですね。ですけど、森田先生は強い意志で救急から外来まで全てをやるということでやっていただいています。

結果、徳洲会から森田先生の技術あるいはそういった精神を学ばせたいということで、徳洲会側から今、整形外科医が派遣をされてきて、先生のもとで学んでいるという状況でございます。

○議長（太田佳晴君）

大井議員。

○7番（大井俊彦君）

私から1点質問というか提案というか、させてもらいたいと思いますけれども、10年後、20年後を見据えてこれから対応していかなくてはいけないという中で、高齢化がどんどん、どんどん進んでいます。病院の中でも東館の中に療養病棟ということで、病状がある程度安定した方々がそこへ入るといって在宅を目指す方もいるだろうし、もうちょっと医療行為が必要な人もいます。

あじさい老健を徳洲会では開設して、今そこではリハビリを中心に在宅を目指して頑張っておられる方が入っています。

ただ、そういう在宅を目指したくてもちょっときつい方々、そうした方々については、やっぱり特養的な施設、こういったものを選択肢の一つとして必要になってくるのかなというふうに思います。そうしたことを長年のスパンで考えていくと、病院を使われる方がいろんな選択ができるような形のシステムというか、病院経営をしていかないと、やっぱり時代に乗っていかないかかなというふうに思います。

収益の面についてもそうなんですけれども、そういう市民の皆さんが榛原病院を起点にして、いろんな選択ができるような形の病院にしてほしいなというふうに思いますけれども、そ

の点についてはいかがでしょうか。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

私も本当に、自分の親父が5年ぐらい前にお世話になって、そのときにやはり最初内科へ、それから療養とかと、ある程度回復といいますか、医療が不要になった、そういう中で老健を紹介していただいたり、あるいは特養は入れなかったものですから老人ホームといいますか、介護つきの老人ホームを紹介いただいたり、非常に丁寧にいろんなところを紹介をいただいてあっせんをいただいた。あるいは、最終的には私最後は在宅をやったんですが、在宅についても訪問看護を持っていますので、訪問医療、訪問看護についてもしっかりやっていただいているので、この地域の中では、静岡県の中では市のほうで在宅を診ているのは、1番。町のほうでは吉田が2番というようなことで、非常に在宅医療というのが徳洲会といいますか、今の病院のおかげで非常に充実しているという状況でありますので、そういった面においては、これからもさらに磨きをかけてサービスの向上につなげていっていただきたいというふうに思っています。

○議長（太田佳晴君）

地域医療室長。

○地域医療室長（高橋伸行君）

それこそ、僕も福祉のほうに携わって、いろいろやってきましたが、もう施設の創設というのは限界に来ている、介護保険料からいってかなり限界にきているところまで達しております。それに対して、今、在宅介護医療連携ということがすごく国のほうでも叫ばれていまして、それを一番に進めているのが今、榛原病院という形で、榛原病院の訪問看護ステーションが、これから訪問看護ステーションという形になりまして、独立した事業所となります。そうすると、普通の開業医の皆さんもその訪問看護ステーションに指示を出して、そこへお宅へいけるというような状況になる。今までは榛原病院にかかった方だけしか行けなかったんですけども、そういった状況で、ほかの病院にかかった方でも指示をいただければこの牧之原市内のエリア、吉田町のエリアの方は全部榛原病院の訪問看護ステーションが中心になってやれると。

それに対して、また開業さんとの連携とか、病院との連携については今度は在宅の医師会で作りました、かけはしというシステムがありまして、それでモバイルを使いまして、在宅にいる患者さんの診療情報とかもやりとりができて、また専門医が判断できるというようなシステムがあります。そういったものを利用しようという会も、医師会のほうで石井真澄先生を中心にやっていただいておりますので、そういったものへ福祉のメンバーも参加しながら、この間も事例発表会とかやったところですよ。

そういったものを推進しながら、ここら辺の医療介護、連携を進めていきたいと。なるべく在宅で看取りができる体制をつくっていききたいというところが今目標です。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

大井議員。

○7番（大井俊彦君）

きょう、午前中も介護保険特別会計の予算の連合審査を行ったわけですが、この制度も、もう改正しながら進んでいくというような制度だと思うんです。介護保険制度というのは。そうなってくると、いろいろもう、自分たちが携わったときよりかなり変わっている制度になっています。

そうした中で、病院も先ほどから言っていますように、いろんな介護の需要がどんどんふえてくると思うんですね。そうなったときに、そうした選択肢に幅広く対応できるような病院として、そうしたシステムをつくっていただきたいなというように思うのが、思いです。

○議長（太田佳晴君）

榛原総合病院組合事務局長。

○榛原総合病院組合事務局長（植松順弘君）

参考なんですけれども、例えば徳洲会グループ、大井議員ももちろん知っているとおりに、別に病院だけじゃなくて、福祉施設とかいろんなところで活躍してノウハウとかも十分ありますので、そういうところに相談ということで、そういう形もできると思います。

単に病院だけじゃなくて、広く大きな目で徳洲会さんとおつき合いすることによって、もっともっというろんな、牧之原市にとってためになるようなこともあり得るかと思しますので、それをまた探求していきたいと考えております。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

原口議員。

○3番（原口康之君）

先ほどから、いろいろな話を聞いて、大体納得はしたんですけど、1点だけ先ほどの鈴木議員から出た脳外科の話ですけど、このいろんな病院の連携をしながら図っていくということなんですけど、脳外科というと、どうしても最初の時間との勝負みたいなところがあって、過去には僕自身大事な人も亡くしている状況を考えると、やっぱりどうしても遠くというか、結局救急車を呼んでもその後1時間以上たってから到着するようなことになっちゃうのは、これは仕方がないんですけど、この先10年間、徳洲会さんとの契約の中で、その辺の部分、もう少し市として何とかならないのかなという部分をもうちょっと詳しく教えてください。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

市民の皆様のご不安とか期待とか、要望というのは私も十分に認識をしているつもりでございます。徳洲会としても、脳外の専門医を榛原総合病院に配置したいという思いは十分理解をいただ

いているというふうに思っています。

そういう中で、努力する中でもなかなか配置ができないという歯がゆさといいますか、感じていただいていると思いますので、それについてはできるだけ早い段階で脳外に関しては常勤医を配置していただくということは、繰り返しお願いしていくしかないというふうに思っていますし、我々もそのためには汗をながさないかんと思っていますし、先ほどいった医師確保の専門担当もいますので、そういった中で確保を病院としても目指すということが重要だというふうに思っています。

それまでの間、先ほど私がお話しさせてもらったように、この間、この数年の中で、最初は大阪医大の先生一人でした。週1回しか脳外科がなかったんですが、これがそういった努力を重ねてきた結果、島田市民病院との連携あるいは平成記念病院から週2回来ていただく。そういう中で、救急はとりましようというようなことも連携ができてきているということですので、ここをもうちょっと救急隊とか、あるいは市民の皆様にもしっかりと発信をさせていただいて、これで連携ができていますよというところをお伝えさせていただいたり、あるいは現場で困らないような処置を病院ともしっかりと救急隊とも研修の中でしっかりと伝えて、連携ができる、もっともっと連携を密にしていかなきゃならんというふうに思っております。

○議長（太田佳晴君）

原口議員。

○3番（原口康之君）

ぜひ、よろしく願いいたします。

○議長（太田佳晴君）

名波議員。

○8番（名波喜久君）

ちょっと確認ですけれども、榛原病院の当初と比べると、大体部屋も4割くらいは今、あきのベッドがあると思うんですけどね、その辺についてそれだけあいているということは、ドクターがいない、診療する科がない、その辺が影響しているんじゃないかと思うんですけどもね、その辺については、そういう系統で部屋があいているんでしょうかね。

○議長（太田佳晴君）

榛原総合病院組合事務局長。

○榛原総合病院組合事務局長（植松順弘君）

今、議員おっしゃるとおり、当然建物だけあっても医療スタッフとかがそろっていないと開棟できません。したがって、今北4病棟とか、南3病棟、それこそ周産期のところですね、とかは使えていない状況です。

確かに、先ほど説明したとおり、ほかの他病院のほうに流出という言い方をしてはちょっと失礼かもしれないんですけど、ほかの病院さんで見られている患者さんもいますので、その方たちが戻ってくるような状況、つまりドクターが確保できて、診療が提供できるという状況にな

りましたら、そこら辺も動いてくるかと思えます。その手始めとして、先ほども説明したとおり、今西3病棟というところ、物理的には50床あるんですが、まずは10床からということで、3月から稼働していて、近い将来、来年度は少しずつふやしていくというような体制でいるというふうに伺っております。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

榛原総合病院は450床で、今から十四、五年前ですか、つくったわけなんですけど、その中東遠の救急医療センターですね、掛川、袋井、これ人口30万で450床の病院なんですね。ですから、当時の病院長といいますか、あるいは当時の管理者の考え方は、この榛南地域だけの、当時は吉田、榛原、相良、御前崎の4町の医療圏ですよ。それだけだと十数万ですよ。中で、500床の病院を目指していたというところは、当然この志太榛原とか、中東遠地域からも患者をとるということでそのスペックの病院を目指したんですね。

ところがやっぱり、そこがそこまで確保できるだけの先ほど言ったように医療スタッフも整わないという中で、どんどん縮小、医師は減ってくるというようなことで、当時目指したことができないということが一番の私は原因だと思っているんですが、ですから、私は今の状況の中でいう、身の丈にあった病床数としたら、今237まで上げた。なので、私はこれから今、榛原総合病院が西3病棟を開いて、あと30床最終的にはあけたいということだと思うんですが、270とか280、300ぐらいが妥当じゃないかなというふうに思っているんですが、それからその後においては、さらに人口減少が進んでいきますので、そういう中で、やっぱり将来のこの地域にふさわしい、この地域に見合った病床数をしっかりと確認する必要があるというふうに思っています。

○議長（太田佳晴君）

名波議員。

○8番（名波喜久君）

そこで、先ほど市長から話があって、徳洲会が大学病院、医療の学校をつくと、よそへつくような話、今あったんだけど、こっちへその学校を持ってくるような話というのはやったことあります。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

こっちへつくってくださいという話はまだしてございません。徳洲会の今の考え方は、湘南鎌倉の横に看護大学をつくって、それに併設をして医大をつくるという計画というふうに聞いていますので、私も静岡県内に浜松医大しかないというのが、静岡県における医師数が少ないという一番の原因だと思っています。ですから、今後ぜひとも病院もうつわもあいているので、ぜひこ

こで医大をと、あるいはキャンパスをと、というようなことも提案ができればさせていただきたいなと思います。

○議長（太田佳晴君）

名波議員。

○8番（名波喜久君）

ぜひ、今の話って大学関係、やっぱり学生がたくさん来れば、近隣にそういう病院があればそういう勉強もできると思うし、ぜひ学校を持ってきてもらいたいという、それが一番のものが、いいドクターをふやすにしても、いい条件じゃないかなと思うものですから、ぜひその辺の話も出していただきたいと、そういうふうに思います。

○議長（太田佳晴君）

良知議員。

○11番（良知義廣君）

名波さんが今、ちょっと話をしたものですから、関連があるかもわかりませんが、私の知り合いの娘さん、藤枝なんですけれども、藤枝市の奨学金で今、浜医大へ行っているということで、開業医の奨励金をここに出していますけど、例えば榛原高校とか相良高校でそういった、お医者さんになる気がある人で、資金面が厳しいよというようなご家庭の子がいたら、奨学金を出して、そして浜医大なら浜医大出して、そのかわり牧之原市に10年とか、そのぐらいの縛りをかけて勤務してもらおうというような、そういった新たな試みというか、これは現実に藤枝でやっていると思いますけれども、そんな状況にあるものですから、一つは開業医とあわせて、そこら辺の制度的なものが構築できればいいのかなと、今ずっと話聞いていて、そんなふうに思いました。

よろしくをお願いします。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

今、徳洲会にも奨学金制度がございまして、この地域の皆さんが医大へいくというときには、月10万円奨学金が出ます。榛原総合病院なり、徳洲会グループで働いていただければ免除になるという制度ですから、ですから、今、良知議員のご提案もございましたので、組合でもやることによって、さらに縛り強くなりますので、組合で奨学金制度を立ち上げる、これ検討させていただきます。

○議長（太田佳晴君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

詳細は別にしまして、指定管理者の榛原病院における経営状況、収支、こういう状況はどのようになっているかということ。なぜ聞くかということ、指定管理を始めてから3年くらいは市町の

全議員に説明会というのが行われていて、非常に経営状況というものを、組合だけではなくて、指定管理者からの説明があって、非常にわかりやすく、そしてこれから頑張ってもらえるんだというような認識でおったわけですけども、その後、4年くらいたったら、ぱったりと説明会がなくなって、議会からも要請したことがあるんですけども、一向に、この間、今まで開かれたことがないわけでありまして。こういう状況でありますので、本来だったら途中経過を含めてきちんと説明する、説明責任を果たすということが必要であろうし、情報提供というのが非常に重要だと思いますので、そのあたりの考え方を伺います。

○議長（太田佳晴君）

今の話は、前議長の時分から、また私になってからも、ずっと一貫してお願いをしております。そういった経過があります。そういったことで、杉本市長からお願いします。

市長。

○市長（杉本基久雄君）

私も情報提供、情報発信、非常に大事だと思っておりますし、今できていることを発信するだけでも、先ほど原口議員からもご質問ございましたけれども、安心できる部分があるということで、本当にそういった情報提供の場が今減ってきているというか、やっていないというところに関しては、私も遺憾に思っておりますので、この機会にしっかりと発信をさせていただきたいと思っておりますし、今度運営会議、定例の地域の皆さんも含めた運営協議会というものを定期的に開催をしている。この辺もやっぱり情報発信ができていないので、ほんの一部の人しか伝わってないかもしれません。ですから、その辺も含めて発信をするようにさせたいと思います。

運営協議会の話については、少し今から補足をさせます。

○議長（太田佳晴君）

榛原総合病院組合事務局長。

○榛原総合病院組合事務局長（植松順弘君）

運営協議会は協定書の中に規定されておまして、主催は榛原総合病院側、指定管理者側になります。メンバーは、議会関係では、牧之原市議会においては大井さんでしたよね。それで、吉田町からも大塚さんが出られると。あとは医師会の方々ですね。それと、病院の幹部の方々、それから支える会とか、ボランティアとしての住民の方々、それらが一堂に会しまして、今年度は今週金曜日の7時半から講堂のほうで、病院長を筆頭にして説明しながら意見交換を行うということでやっております。

ただ、先ほど管理者のほうから言われたとおり、そこだけで情報がとまってしまっているというところがありますので、そこを今後、その会議をどういうふうにしていくかという、そのあり方についても、今協定書の見直しの中で指定管理者側と話をしておりますので、もっともっと効果があるような形に変えていきたいと考えております。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

前者のところで、今の指定管理者の榛原病院における収支状況、これをということで。

○議長（太田佳晴君）

榛原総合病院組合事務局長。

○榛原総合病院組合事務局長（植松順弘君）

病院年報とか、そういうところにも、こちらの議会のほうにもお届けしているかと思いますが、載っておりますが、ざっくり答えたいと思います。

平均値的な数字でありますので、年度間で格差があるところでご了承いただきたいんですけども、医業収益、本業のほう、大体年間40億円の売り上げがあります。材料費が大体10億円ぐらいかかっておりまして、粗利で30億円ぐらいです。

一般管理費、いろんな建物補修とか、人件費が26、7億円だと思いますので、医業収益においては3億円ぐらいの利益があるところなんです。

医業外収益のほうですね、それが5億円から6億円、費用として4億円ありますので、2億円。なので、そこまで大体、今、営業利益として4億円から5億円ぐらいというところでキープしています。ただ、そこから税金がありますので、税金が1.5から2億円ぐらい、2億円まではいかないと思いますけどありますので、その残り、4億円ぐらいが最終的な利益というふうになります。

ただ、29年度は数値がよかったので、5億円ちょっとまで利益が上がっているかと思っています。

概要としてはそのような感じなんです。

○議長（太田佳晴君）

吉田議員。

○4番（吉田富士雄君）

前回の定例会でもちょっと言ったんですが、管理者というのが牧之原市だけで市長と副市長が管理者ということで、吉田町にいないというのが、吉田町の意見も聞きたいと、吉田町にしてみれば、町民もいることだし、やっぱり管理者が牧之原市だけではちょっとおかしいじゃないかというのを、先立っての定例会で、私質問しました。やはり、吉田町と牧之原市とで榛原総合病院を管理しているんだから、吉田町にも入れるべきではないかなと自分は思っています。どうでしょうか。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

前回の病院組合の全協の席でもお話をさせていただきましたけれども、これは非常に長い歴史がございまして、榛原総合病院ができてから、立ち上がりするときから、先ほど私言ったように、

榛南4町でスタートしています。そのときに、榛南4町、もっと前からなんですけど、管理者が当時榛原町長、それから町になってからなんですけど、副管理者が助役という位置づけになっていて、その時代からずっと何十年ときているんですね。

ですから、合併してからも、最終的には牧之原市長が管理者、そして副管理者が副市長というのが、ずっと続いてきて、そのときにどんな議論がされたのかというのは、ちょっと私もわからないんですが、そういった過去の歴史があって、そのまま移行してきているというのが現状です。先ほども前回のときも申しましたけれども、私も一番最初感じたのは、何で吉田町が副管理者にならないんだろうというのは、私も思ったんですね。それで調べてみたら、もともと旧榛原町が管理者も副管理者もやっていたということから来ているというのがわかったものですから、その後、まだ吉田町さんとはまだ話ししていないものですから、その吉田町さんの意向も踏まえて、今後副管理者になっていただけるようなら、そのほうが私も話は進めやすいかなというふうに思っていますので、そんな形でこれから話はしてみたいなと思います。

○議長（太田佳晴君）

吉田議員。

○4番（吉田富士雄君）

やはり、一緒に病院経営やっていくというか、運営していくためには、両町両市、吉田町と一緒に議論してやっていくべきだと自分は思っています。そういうように進めてほしいと思います。以上です。

○議長（太田佳晴君）

植田議員。

○9番（植田博巳君）

先ほどは随契という形の観点で、契約上の質問をさせていただいたんですけれども、今、皆さんのお話しした中でいくと、現状の課題と、今後のあるべき姿というような形で医師確保とか他病院との連携とか、救急医療の関係のお話がありました。

ぜひ、今の現状と課題、今後の対応という中で、榛原病院というか地域医療の将来構想を出した中で、議論をもう一度お願いしたいなということと、10年間の指定管理をやる中で、10年間に指定管理を出す条件として、ここの地域医療の救急体制はどうするのかとか、医師の確保をどうするのか、そういったものを条件として示すと思うんですけれども、その交渉を今徳洲会さんとやられていると思うので、その大本となる課題と、今後の牧之原市とか吉田町の思いというのが乗った構想をぜひ出していただいて、それに対してもう一度議論させていただければ非常にありがたいなと思っているんですけれども。

○議長（太田佳晴君）

榛原総合病院組合事務局長。

○榛原総合病院組合事務局長（植松順弘君）

まず、ビジョンといいますか、将来像なんですけれども、一つには昨年度つくりました榛原総

合病院の運営計画、新公立病院改革プランというところに、概要的には載っているかと思います。ただ、議員ご指摘のとおり、その中で榛原病院がどうなんだというところは、当然これまでの指定管理の実績とかも踏まえて、そのことをうまく反映させながら、協定書も考えてはいるんですけども、やはり病院独自のあり方といいますか、それは議員のご指摘のとおり、もっと詰めていかなければいけないと思いますので、そこはまた皆さんご協議いただきながら、考えていきたいと思っております。

○議長（太田佳晴君）

藤野議員。

○6番（藤野 守君）

徳洲会が10年前、非常に新研修医の制度の中で混乱した中で、指定管理を引き受けていただいたというような形だと思うんですね。私はそれを忘れないようにしたいなと思っているんですけども、今、いろいろお話出の中で、非常に技術力がすぐれているであるとか、連携をこれからしていくんだとか、いいお話すごくいっぱい出たと思うんです。

ただ、多くの人に話したわけじゃないんですけども、問題とか、病院ですからおもてなしじゃないんですけど、いろいろのことも聞くんですよ。どうもという話も聞くんですけども、それだけ改善していけば、さらに伸びる余地がある、伸びしろがあるというか、非常に将来性のあることだというふうにも思っています。ぜひ、そういったことも耳を傾けていただいて、計画の中にそういうのを織り込みながら、これからしていただきたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

計画も大事ですし、それを実行していくことも非常に大切だというふうに思っております。そういう中で、私が一番大事なのは、やっぱり人と人ですので、お互いに信頼関係を構築して、この牧之原、吉田のためだったら、もう一肌、二肌脱ぎましょうというような、やっぱり信頼関係を構築していくのが大事だというふうに思っていますので、今回私も徳洲会さんと話をするときには、本当に10年前、もし引き受けてくれなかったら、この両市町は破綻をしていたということに関しての、まず感謝とこの10年間の感謝をさせていただいて、そしてこの次の10年間も担っていただけるだろうかというようなことから、スタートさせていただいて、今後この10年間の中でしっかりと、さらに深い信頼関係を構築して、その中で我々の思いがしっかりと伝わる、あるいは聞いていただける、そういう関係を築いていきたいというふうに思っています。

そして、いろいろな榛原病院に対しますご意見というのは、私たちが真摯に受けとめなくてはいけないというふうに思っています。ですから、いろんなところで来た苦情等に関しては、しっかりと病院組合に伝え、病院組合から榛原病院の事務局に伝え、改善をするということを心がけているわけですが、先日ある方が、高齢者の方ですが病院でなくなられたという方のところへ少

し私もお悔やみに行ったんですが、そうしたら、看護師の皆さんが非常に明るい。誕生日を迎えたときに、もう、一人の看護師さんが記念写真とろうねと言ったら、ほかの看護師さん、病棟の看護師さんもみんな集まってきて、皆で明るく全員で集まって患者さんを支えながら写真を撮った。家族の方も非常に喜んでおりましたし、亡くなられた方も非常に喜んで、最後の笑顔だねなんていうことで言われていまして、本当にそういった、一方ではすばらしい意見も、喜びの声も聞かれていますので、そういったこともしっかり発信させていただいて、信頼ある病院にしていきたいと思っております。

○議長（太田佳晴君）

澤田議員。

○12番（澤田隆弘君）

議長が文教厚生委員会の委員長をやっているとき、千葉県の旭中央病院というところへ視察研修にいったときのお話なんですが、その病院で医師の確保はどうしているかと聞いたら、医師にマンションを与えていると。皆そこから通って病院へやって来てくださっている。それで、その中にまだ病院の中に心臓病のダヴィンチ、そういうのも全国に一つしかないような機械がありましたので、そういうのも取り入れたら若い医師が来てくれるんじゃないかと思いますが。

○議長（太田佳晴君）

榛原総合病院組合事務局長。

○榛原総合病院組合事務局長（植松順弘君）

まずは医師住宅の件なんですけれども、基本的に榛原病院でも用意しておりまして、リースのマンションタイプといいますか、それが8棟といいますか、用意してあります。

もともと病院組合で持っていた住宅がございますので、こちらに来たドクターに限らず、ほかの医師とか、そういう方々にもお住まいいただいておりますし、看護師の宿舎に関しては30部屋ありますので、そこを利用していただいております。

もう1点、いわゆるダヴィンチとかそういう医療機器、議員おっしゃるとおり、そういうのがあれば、当然ドクターも集まってくるけれども、まず一つは高額であることと、もう一つはそれを教えるドクターもいなければいけないし、そもそもこなすだけの症例数がなければできないという状況があります。

そこ等も踏まえて、もし先ほど市長からお話がありましたとおり、心臓のほうで特化していくとか、そういうところが特徴化するということが出てきましたら、当然そういうことも考えていくようになるかと思えます。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

私も徳洲会の鈴木理事長に1月にお会いしたときに、鈴木理事長からは、剰余金がございます

よね。今、積んである。その剰余金については、最新の医療機器のためにまずは使って、高度医療といますか、そうした最先端の医療機器によって医師が来たくくなるような、そういった医療機器の更新は徳洲会がやりますというお話をいただいていますので、必要な機器に関しては、我々はちょっと細かいことまでわかりませんが、徳洲会側も努力するというふうに言っておりますので、そんなふうになるように、我々も働きかけをしてみたいです。

○議長（太田佳晴君）

澤田議員。

○12番（澤田隆弘君）

徳洲会にはすばらしい心臓の名医がいるという話を聞いたので、そういうのはどうかなと聞きました。

○議長（太田佳晴君）

榛原総合病院組合事務局長。

○榛原総合病院組合事務局長（植松順弘君）

ちょっと補足で説明します。今週の金曜日に開かれる運営協議会ですが、先ほども審議会のほうで大井議員と言ったんですけれども、文教厚生委員長というお立場でメンバーになっているということをご理解ください。

もう1点、先ほど病院に対するご意見とかクレームの件なんですけれども、当然組合を通してもいいし、病院には患者支援センターとかありますので、お伝えしてもいいんですが、特に我々に情報提供くださるときに、その方のお名前とか、いつ病院にかかったとか、具体のことを教えていただかないと、後を追えないものですから、もしお話がありましたら、そこら辺ご協力をお願いします。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

運営協議会は公開ですか。

○榛原総合病院組合事務局長（植松順弘君）

公開です。

○議長（太田佳晴君）

ということですので、少しそんなお話も聞いたものですから、もし行ける方は行ってください。

では、以上で当局のほうはありがとうございました。

どうしますか、議員のほうですけど、少し協議をしたいものですか、休憩を挟みますか、そのままやりますか。いいですか。

3 協議事項

○議長（太田佳晴君）

それでは、引き続きお願いします。

協議事項ということなんですけれども、先ほど来、皆様からいろんな質問、ご意見出たんですけれども、冒頭市長のほうからもありましたように、徳洲会のほうで来年の3月いっぱいが一応10年の満期なんですけれども、当然なんですけれども、いろんな準備等もあるものですから、1年前に榛原病院の方向性を示してもらいたいということで、最終的には榛原病院議会の議決をもって決まっていくことなんですけれども、その前に、やはり我々、村田議員と吉田議員と私が病院議会の3名出させてもらっているんですけれども、基本的には牧之原市議会の総意をもって出席して、それで議決に臨まないといけないものですから、きょうのお話を踏まえて、市長は今までどおり、32年からの10年間を引き続き徳洲会にお願いしたいと。その中では、いろんな、今皆さんから出されたような、当然意見も付して今最終的な詰めを行っているということなんですけれども、その方向で牧之原市議会も合意していくのか、そこを決めておいていただきたいなと思います。できれば、それをもって、我々3人も責任を持って病院議会へ臨みたいと思いますので、ご意見をお願いします。

大石議員。

○14番（大石和央君）

これまでの議員から出た意見を踏まえて、きちんとやっていただければ、これは市長が言われたように、引き続きお願いをするというようなことでいいと思います。

○議長（太田佳晴君）

鈴木長馬議員。

○1番（鈴木長馬君）

徳洲会からは意向についてということで、申し入れというか、来てはいますけど、こちらから徳洲会に対しての意向というか申し入れについては、先ほどいろいろ意見が出ましたけど、それについて、それをまとめてそのような形で意向を伝えるのかどうかということなんですけど、その辺はどうなりますでしょうか。

○議長（太田佳晴君）

まさに今、鈴木議員言われたように、ちょっと今から皆さんに確認をとろうと思ったんですけれども、意向のほうは市長の方向どおり指示していくということなんですけれども、そうは言っても、なかなかきょうも皆さん、いろんなご意見あるものですから、それをしっかり踏まえた中で、お願いしていくということで、牧之原市議会とすると、きょう出た意見を少しまとめて付していくことにしたいと思います。

そんな形でもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○議長（太田佳晴君）

それでは、来年からの10年間については、市長の考えのとおりいくということで、3人の病院議会の議員が榛原病院議会の議会に招集があったときには、それをもってやっていきたいと思えますので、よろしくをお願いします。

4 その他

○議長（太田佳晴君）

議会事務局総務係長。

○議会事務局総務係長（大塚康裕君）

私のほうから1点、お知らせなんですけれども、先週一般質問を行いまして、うちの委託のほうで映像配信を録画しまして、きょうから配信をしましたので、一応お知らせをさせていただきます。

以上です。

○議長（太田佳晴君）

それでは、以上で全員協議会を終わります。ご苦労さまでした。

[午後 2時20分 閉会]